

作成日：2023年6月15日

## 研究課題「急性期病棟における身体拘束の解除に成功した事例の実態調査」に関する情報公開

### 1, 研究の目的

当病棟は総合内科、循環器内科の患者が入院する急性期病棟です。患者層として入院患者様の約7割を75歳以上の後期高齢者が占めており、入院中にせん妄を発症する患者様や既往に認知症を有する患者様が多い傾向にあります。入院する高齢患者様の15～50%は入院期間中のいずれかの時点でせん妄を経験します。また、認知症の患者様は行動・心理症状を引き起こしやすいです。せん妄や認知症による症状により点滴ルート・胃管チューブ類の自己抜去、転倒転落を起こすリスクがあるため、入院中にせん妄を発症した患者様や認知症患者様に対し、治療や安全を優先するために本人様やご家族の同意のもと身体拘束を実施する場合があります。しかし、身体拘束は患者様の尊厳を守るために「緊急やむを得ない場合」に限り、「切迫性」「非代替性」「一時性」の3原則を満たす場合のみの適応とされています。その中で看護師は患者様の治療や安全の優先と身体拘束をしたくないという思いの間でジレンマを抱えています。

当病棟では、行動制限使用に関するインシデントを共有し、行動制限の使用継続について日々カンファレンスを行っていますが、行動制限が解除できた事例に関しては結果のみの報告であり、解除に繋がった経緯や看護の内容については振り返る機会が少ないです。また、身体拘束解除に成功した事例の実態調査をしている研究は少なく、今後の身体拘束の解除に繋げるために身体拘束の解除の成功事例を分析することで患者様の尊厳を守り、身体拘束による苦痛を減らすための看護に繋がると考え、本研究に取り組むこととしました。

### 2, 研究対象

2022年4月1日～2023年3月31日まででA棟5階東病棟に入院していた患者様

### 3, 研究に用いる情報

- ① 2022年4月1日～2023年3月31日までで当病棟に入院していた患者様のうち、身体拘束を使用しており解除に成功した件数
- ② 療録
  - ・患者様の年齢
  - ・疾患（認知症やせん妄の既往も含む）
- ③看護記録

- ・使用した身体拘束の種類
- ・認知・リエゾンチーム介入の有無
- ・チューブやドレーン類の使用の有無
- ・転倒歴の有無など

#### 4, 研究組織

研究実施責任者：今村総合病院 A棟5階病棟 看護師 川尻 美緒

研究分担者：今村総合病院 A棟5階病棟 看護師 荻 志穂、  
澤田 愛理、吉岡 映吏子 池田 清夏

#### 5, お問い合わせ先

- ◎ 本研究に関するご質問・相談がある場合
- ◎ 研究を希望されない場合

情報が該当研究に用いられることについて患者様、もしくは患者様の代理人の方にご了承頂けない場合には研究対象としません。その場合は当施設の担当者の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

#### 当施設の相談窓口

研究責任者（当施設）：今村総合病院 A棟5階病棟 川尻 美緒

研究分担者：荻 志穂、澤田 愛理、吉岡 映吏子、池田 清夏

所属長：池田 清夏

〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 11-23

TEL 099-251-2221（代表）